

第3学年E組学級活動学習指導案

指導者 高橋 成

1. 研究主題

社会性、連帯性のある児童・生徒の育成

2. 研究仮説

- 個を生かした教育活動を進めていけば、魅力ある学校生活になるであろう。
- 児童・生徒が意欲をもって取り組むような集団活動の場を設定していけば社会性、連帯性が高まるであろう。

3. 題材

「音魂祭に向けて」

(内容(1)学級や学区の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

4. 題材について

(1) 題材設定の理由

本議題は、特別活動の内容「学級活動」(1)「学級や学校の生活づくり」ア・学級や学校における生活上の諸問題の解決を受けて設定したものである。

学級や学校での生活の充実と向上を図るためには、そこで生じる人間関係や生活上の様々な問題について、生徒一人一人が学級や学校の一員としての自覚と責任感に基づき、協力して解決していこうとする自主的、実践的な活動を進めていくことが大切である。また、集団生活としての学級や学校の生活の充実と向上に関する問題がある。豊かで規律のある集団生活を築いていくためには、自分自身が集団の一員であるという自覚と責任感をもち、その中で生まれてくる様々な問題を話し合っ解決したり、役割を分担し合っ処理したりすることが必要であり、そのための組織や係が生徒会活動とも連携を図りながら、自発的、自治的な活動を進めていくことが大切である。

本学級では、体育祭や修学旅行と学校行事のすべてに「最後の」という言葉がつく中で、学級の団結力が試される大きな行事が終わっていき、現在は「音魂祭」(合唱コンクール)に向けた取組が熱を帯び始めている。生徒にとって「音魂祭」は、「体育祭」と並んで最も関心の高い行事の1つである。特に、3年生としては中学校最後、生徒によっては人生で最後になるかもしれない貴重な合唱体験であり、どの学級もこの行事にかける思いは強い。そのような「音魂祭」に向け、音魂祭実行委員やパートリーダーと会話を交わす中で、改めてその思いが強さを感じた。

そこで、数日後に控えた中学校生活最後の「音魂祭」を迎えるにあたって、最後の意見交換をボトムアップ型指導により行い、充実した学校行事となるように本議題を設定した。

(2) 研究主題との関連

本部会の研究主題は「社会性、連帯性のある児童・生徒の育成」である。

- ①現代社会が求めている人間像
- ②現代の児童・生徒の傾向
- ③機能としての生徒指導のあるべき姿

以上の3つの観点より主題が設定されている。個を生かした教育活動を進めていくことで、魅力ある学校生活となることが予想され、さらに児童・生徒が意欲をもって取り組むような集団活動の場を設定していけば社会性、連帯性が高まるであろうと考えられる。

今回、学校行事を目前に控え、学級で話合いの場を設定することにより再度意欲をもって取り組ませ、社会性、連帯性のある学級づくりのきっかけとしていきたい。さらに、一人一人が積極的に話し合いに参加し、活動を通して学校行事へ取り組む姿勢や学級の一員としての考え、理解・表現ができるようにしていきたい。

(3) 生徒の実態

本校は、「幕張メッセ」を核につくられた未来型都市「幕張新都心」の住宅地「幕張ベイタウン」の一角にあり、今年度創立22年目の比較的新しい学校である。全校生徒は、900人と大規模校である。

授業は、教科ごとに専門の教室で行う「教科教室型（教科センター方式）」が取り入れられ、各ブロックにはオープンワークスペース、教科教室、研究室が設けられている。教科の学習にふさわしい環境構成となっており、学習に必要な教材、教具、資料などをすぐ手にとって活用することができるため、学習意欲を高めている。また、生徒は各自のロッカーがあるホームベースを基本に、それぞれの学習時間に各教科ゾーンへ移動して授業を受けている。

本学級では、自分たちの力で学校生活をよりよくしていくことを目指し、日々の生活や学校行事などを中心に意図的に学級活動の内容（1）による話し合い活動の実践を行ってきた。また、ボトムアップ型指導を中心に生徒による自主的な意見を取り入れ、主体的に物事を解決していく姿勢を育ててきた。今後の進路決定や卒業にむけ、さらなる充実を図りたい。

5. 指導のねらい

- 過去2年間の経験や体育祭で培われた雰囲気や、系統的に生かし、今後の活動意欲を高める。
- 自分も周りも楽しめる取組みを目指し、一人一人が役割を担うことで、主体的に活動する態度を育む。

6. 評価の観点と評価基準

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価基準	音魂祭に向けた合唱づくりに関心を持ち、話し合い活動や実践において、意欲的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の一員として、人間関係をさらに深めるための方法や工夫を考えている。 ・自己の役割に責任を持ち、他と協力して話し合い活動や実践に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱をつくりあげる意義を理解している。 ・役割を分担して、みんなで1つのことをつくりあげる良さを理解している。

7. 本時の指導と生徒の活動

(1) 本時の題材

「音魂祭に向けて」

(2) 本時の目標（ねらい）

- ①音魂祭に向けた取組みに関心を持ち、お互いの創意工夫を生かす。
- ②学級の一員としての自覚を持ち、音魂祭までの活動意欲を高める。

(3) 本時の展開

過程（時配）	学習活動と内容	指導や支援の手立てと評価
導入 (10)	司会：音魂祭実行委員 ○音魂祭の学級目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">4 1 音に気持ちを込めてE組らしく奏でよう</div> ○本時の流れを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボトムアップミーティング（班ごと） ・ワークシート作成 	○掲示物を貼り、意欲を高める。 ○本時の活動内容を確認させ、学習の見通しを持たせる。 ○簡潔に説明し、活動時間を多くとれるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 <p>○事前に録画した合唱を鑑賞する。</p>	<p>○交流会の動画を見せて、現状を把握させる。 ○よい点や改善点などを意識しながら鑑賞するよう、助言する。</p>
展 開 (30)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">最後の音魂祭に向け、意識を高めよう。</div> <p>○ボトムアップミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごと（1班4～5人×8班）と（実行委員、指揮者、伴奏者のグループ）に分かれて話し合いを行う。 ・KJ法を使い、パートのこと、全体のことを話し合う。 <p>○班ごとに発表</p>	<p>○付箋と用紙を用意し、より多くの意見が出るようにさせる。 ○一人一人の考えを尊重しながら、班としての考えをまとめさせるように声をかける。 ○まとめるときには、よかったところ、課題、改善策の3つの視点で考えるように促す。</p> <p>○他の班の意見と比較しながら聞くよう、声をかける。</p>
ま と め (10)	<p>○個人新聞の作成、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を基に、小見出しと記事をつくる。 ・実行委員、パートリーダーは、発表用のカードに記入する。 ・パートリーダーが代表して発表する。 <p>○話し合いをもとに実際に合唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートごとに分かれ、全員で歌う。 ・指揮者、伴奏者が振り返りを行う。 	<p>○前向きな記事になるように、助言する。</p> <p>○話し合った内容を生かして歌うよう、意識させる。 ○気持ちを高めて本番につなげられるよう、声掛けをする。</p>

(4) 評価

- ①音魂祭に向けた取組みに関心を持ち、お互いの創意工夫を生かすことができたか。
- ②学級の一員としての自覚を持ち、音魂祭までの活動意欲を高めることができたか。